

特色ある学校

東日本大震災被災地の子どもたちに手づくり遊具を

—ものづくりと地域貢献に関する取組—

岐阜県立高山工業高等学校 建築インテリア科 室谷 伸治
大野 靖雄

1. はじめに

本校は昭和 19 年、岐阜県高山航空学校として創立。約 2 年間の飛行機に関わる学校であった。ちなみに、当時研究開発されていた飛行機は、幻の木製戦闘機「キ 106」である。

終戦を迎え、昭和 20 年 11 月に岐阜県高山工業学校に改称。昭和 23 年 4 月に岐阜県高山工業高等学校に昇格。昭和 32 年 4 月には岐阜県斐太実業高等学校に改称して創立。そして昭和 48 年 4 月に農工分離し、現在の名称である岐阜県立高山工業高等学校として創立された。



創立 70 周年記念事業で設置された
国旗・校旗掲揚塔

様々な沿革を経て、今年度（平成 26 年度）創立 70 年を迎え、11 月 1 日に記念式典を開催した。創立 70 周年記念では「未来につなごう、飛騨の匠の技と心！」をスローガンに、様々な記念事業が行われた。

今回は、本校の特色ある取組として、手づくり遊具を東日本大震災の被災地に寄贈する取組について紹介する。

2. 経緯と目的

平成 26 年度に創立 70 周年を迎えることから、3 年前、同窓会に創立 70 周年記念実行委員会が組織された。その記念事業の一環として計画されたのが「地域貢献に関する取組」である。

4 年前の 3 月、東日本大震災が発生した。当時、生徒会を中心に募金による支援活動を実施した。他に何かできることがないかと思案していた。そうしたとき、現地へ出向き支援活動を行った NPO 法人の方から、保育園建設の情報がいった。そこで、「ものづくりによる支援」が提案され、建築インテリア科の課題研究の授業、放課後活動している建築インテリア技術部（生産系部活動）とで室内で使える遊具を製作して贈ることを決めた。この事業は 70 周年記念事業の一環として、平成 24 年度を皮切りに 3 年間実施することが決定した。

事業の目的は、①本校が持つ教育力を地域等に還元する。貢献活動を通して、人間性豊かな

職業人の育成を図るとともに、ものづくりを通して将来のスペシャリストの育成を目指し、将来の地域産業を担う人材を育成する。また、活動を通して、地域等の方々に工業高校の情報を発信し、本校の教育内容の理解につなげる。②被災地の人との出会い、学校に戻ってからの全校生徒の前での報告会を通して、コミュニケーション能力や言語能力を育む。③生徒が被災地を訪れ、被災の現状を目にすることで、震災そのものを体感することである。

3. 実施内容

(1) 第1期（平成24年度）

＜期日＞ H25.2.16～18

＜訪問先／所在地＞

○北上子育て支援センター／宮城県石巻市

＜贈呈物＞北上町

すべり台、ジャングルジム

＜訪問者＞

生徒4名 引率2名

(2) 第2期（平成25年度）

＜期日＞ H26.2.17～18

＜訪問先／所在地＞

①女川町立第一保育所／宮城県牡鹿郡女川町

②女川町立第四保育所／宮城県牡鹿郡女川町

③石巻ひがし保育所／宮城県石巻市

④北上子育て支援センター／宮城県石巻市

＜贈呈物＞

すべり台、ジャングルジム、積み木



北上子育て支援センターにて



女川町立第四保育所にて

ビー玉転がし

＜訪問者＞

生徒4名 引率3名

(3) 第3期（平成26年度）

＜期日＞ H27.2.15～17

＜訪問先／所在地＞

①名足保育園／宮城県本吉郡南三陸町

②伊里前保育所／宮城県本吉郡南三陸町

③ルームボイス／宮城県本吉郡南三陸町

④志津川保育所／宮城県本吉郡南三陸町

⑤石巻ひがし保育所／宮城県石巻市

＜贈呈物＞

すべり台、ジャングルジム

パズル遊具、ボックス遊具、知育玩具

＜訪問者＞

生徒6名 引率2名



志津川保育所にて

4. 製作物

① すべり台



② すべり台



③ ジャングルジム



④ ボックス遊具 I



⑤ ボックス遊具 II



⑥ ボックス遊具 III



⑦ ビー玉転がし



⑧ パズル遊具, 知育玩具



5. 生徒の感想

～ 25 年度に訪問した生徒の感想より～

今回、東北の被災地へ僕たち 4 人が行かせていただきました。

石巻市に着き、あの大震災から 2 年経った被災地を見ました。いまだに壊れたままの建物、家が流された後の更地、また道路の壊滅状態はすさまじく、至る所で復興工事が行われていました。テレビでは見ていましたが、実際に被災地を自分の目で見てすごく驚きました。大津波を想像するだけで恐ろしくなると同時に、復興にはまだまだ時間がかかると感じました。

2 日目、北上子育て支援センターに行き、園児と一緒に遊具の組み立てを行いました。出来上がった遊具でみんなが嬉しそうな笑顔で夢中になって遊んでくれ、寄贈して良かったと思いました。

午後、去年の先輩が遊具を寄贈した大谷幼稚園へ行きました。園児は津波の被害を受け、今でも小学校を間借りしている状態でした。69 名の園児がいましたが、遊具は昨年度贈ったスベリ台が 1 台しかありませんでした。その 1 台のスベリ台でみんなが楽しそうに遊んでいる姿を目にしましたが、僕はなぜかかわいそうに感じました。園児と 30 分程でしたが楽しく遊びました。最後に園の先生方から訪問や交流に対する感謝の言葉をいただき、本当に来て良かったと思いました。

被災地の状況を実際に自分の目で確かめられ



たことにより、被災された人たちの辛い思いを少しでも感じることができ、本当に良い体験になりました。僕にとってすごく貴重な 3 日間になりました。有難うございました。来年も後輩には今年のように、遊具を製作して寄贈してほしいと思います。

6. おわりに

被災地は少しずつ復旧していたが、東北の復興にはまだまだ時間がかかると思われる。実際に私たちが目で見たことを伝えて、震災を風化させないように、行動することの大切さを痛感した。今年度は記念事業最後の年になる。私たちの行動は微力ではあるが、遊具の寄贈を通して、被災で辛い思いをした多くの子どもたちが少しでも笑顔に溢れ、楽しく遊んでくれたら、嬉しく思う。

今回の取組は、魅力ある学校づくりに貢献した教育活動と捉えている。また平成 25 年度からは、高校改革リーディングプロジェクト推進事業と称し、県教委より 3 年間の指定を受け、①リーダーの育成、②キャリア教育の推進、③コミュニケーション能力の育成を目標に研究している。岐阜県北部の唯一の工業高校として、特色ある教育活動を展開し、魅力ある学校・学科づくりに努め、①将来のスペシャリスト、②将来の地域産業を担う人材、③人間性豊かな職業人の育成を図ることを目指し、これからも産業教育の充実・発展に務めたい。

